

2024.4.17 角川俳句賞2024 プランB 全13選 選31句

角 麗かやうららと歌ひ出す歌も 4.17 20:10

角 夕立や素足に下駄の白浴衣 4.18 21:18 am

角 春昼の織機に積る綿埃 4.18 21:18 am

角 龍天に登る土龍の穴を抜け 4.18 21:18 am

角 春の土篩にかけて埃立つ 4.18 21:18 am

角 朝寝から起きて傾くバルザック 4.18 21:01 am

角 喜色とは朝寝足りたる笑みの色 4.18 21:01 am

角 蒲公英や一口大の日をあげて 4.17 20:11

角 初花の増えてをりたるゆふべかな 4.17 20:11

角 飛ぶ虫も飛ばざる虫も花の頃 4.17 20:18

角 影の字に京の字のある涼しさよ 4.18 21:24 am

角 積み上げて本より高し雲の峰 4.18 21:24 am

海老子流木の旅 4.18 7:22 am

角 長旅を終へし流木夏の月 4.18 21:30 am

角 水のないモータープール日の盛り 4.18 21:18 am

角 たまに会ふ後輩と行く螢狩 4.18 21:18 am

角 夜濯のつまみ洗ひのもの二三 4.18 21:18 am

角 毛ものらのその根源の毛虫なり 4.17 20:21

角 百足の子百に足らざる足の数 4.17 20:21

角 万緑の濃き緑より濃き緑 4.17 20:16

角 万緑の中の異なる色かたち 4.17 20:16

角 新緑の「ボール取らせてください」と 4.18 7:17 am

角 青黴を研究室に育めり 4.18 7:47 am

角 赤青黄その他黴類研究所 4.18 7:50 am

角 破門され苔の緑は青黴に 4.17 20:13

角 団子食ふ遅筆の机月遅し 4.17 20:13

角 切られては角なき鹿の小さき顔 4.17 20:13

角 春待つや時刻に満ちて時刻表 4.18 7:10 9am

角 ぱつくりと一口大の冬日かな 4.18 7:10 9am

角 大いなる枯野に一石を投ず 4.18 7:15 am

角 悴めば家も軋んで月夜かな 4.17 20:14

「おかしな私共も待む」 4.17 20:14

先社代々大いなる知るる秋の雲 4.18 7:17 am

明け方の柱に励む手組のさぐり 4.18 7:47 am

暁時の 4.18 7:50 am

明け方の柱に励む手組のさぐり 4.18 7:50 am

9月11日

2024 18 【角川俳句賞2024 プランB 全16】 選22句

① 角 隅田川春のうららと歌ふなり
4.18 12.54
14.22

角 春の土飾にかけて埃立つ

角 朝寝から起きて傾くバルザック

角 喜色とは朝寝足りたる笑みの色

角 龍天に登る土龍の穴を抜け

角 蒲公英や一口大の日をあげて

角 飛ぶ虫も飛ばざる虫も花の頃

角 新緑の「ボール取らせてください」と

角 赤青黄その他黴類研究所

角 たまに会ふ後輩と行く螢狩

角 万緑の濃き緑より濃き緑

角 万緑の中に電波を飛ばす塔

角 毛ものらのその根源の毛虫なり
4.18 12.50

角 足の数少し足らざる百足の子

角 夕立や素足に下駄の白浴衣

角 夜濯のつまみ洗ひのもの二三

角 流木が海に漂ふ夏の月

角 明け方は欠伸の虫もありぬべし

角 切られては角なき鹿の小さき顔

角 団子食ふ遅筆の机十三夜

角 影の字に京の字のある寒さかな

角 暁闇の柱に励む霜の声

角 万緑の中に電波を飛ばす塔

角 万緑の中に電波を飛ばす塔

① 隅田川春のうららと歌ふなり
4.18 12.54
14.22

② 毛ものらのその根源の毛虫なり
4.18 12.50

③ 足の数少し足らざる百足の子

④ 夕立や素足に下駄の白浴衣

⑤ 夜濯のつまみ洗ひのもの二三

⑥ 流木が海に漂ふ夏の月

⑦ 明け方は欠伸の虫もありぬべし

⑧ 切られては角なき鹿の小さき顔

⑨ 団子食ふ遅筆の机十三夜
14.34

⑩ 影の字に京の字のある寒さかな

⑪ 暁闇の柱に励む霜の声

⑫ 万緑の濃き緑より濃き緑

⑬ 万緑の中に電波を飛ばす塔

⑭ 万緑の中に電波を飛ばす塔

⑮ 万緑の中に電波を飛ばす塔

2024・4・18 【角川俳句賞2024 プランB 全17句】 選16句

3

角 「の」を伸ばし春のうららの隅田川

角 明け方は欠伸の虫もありぬべし

角 埃舞ふ篩にかけし春の土

角 切られては角なき鹿の小さき顔

角 喜色とは朝寝足りたる笑みの色

角 お団子を食べる遅筆の十三夜

角 龍天に登る土龍の穴を抜け

角 影の字に京の字のある寒さかな

角 蒲公英や一口大の日をあげて

~~甘味もあつ降りも同じ某味もなり~~
4.18 23:33

角 飛ぶ虫も飛ばざる虫も花の頃

? 行方不明 4.19

↓ 飛ばざる

角 新緑の「ボール取らせてください」と

~~下ノの座に餅大粒をつつこなり~~
4.18 2:33 am

角 赤青黄その他黴類研究所

~~三原も手も冷えぬ布団は暑を好む~~
2:33 am

角 毛ものらのその根源の毛虫やも

~~短故に青大将に兵もなき~~
2:42 am

角 夕立や素足に下駄の白浴衣

角 夜濯のつまみ洗ひのもの二三

角 流木が海を漂ふ夏の月

2024・4・19【角川俳句賞2024 プランB 全19句】 選22句

角 手も肩も冷えぬ布団に春を詠む 角 毛ものらのその根源の毛虫やも

角 「の」を伸ばし春のうららの隅田川 角 夕立や素足に下駄の白浴衣

角 埃舞ふ篩にかけし春の土 ふりはれて埃つぼを去る土 4.19 20:29 角 夜濯につまみ洗ひのもの二三

角 喜色とは朝寝足りたる笑みにこそ 角 流木が海を漂ふ夏の月

~~角 龍天に登る土龍の穴を抜け~~ 角 明け方は欠伸の虫もありぬべし

角 卒業や未来に続く今日明日 今日の夕以降はままとやまう 4.19 20:27 角 切られては角なき鹿の小さき顔

角 芽吹ききたれば隣りも同じ芽吹きなり 角 お団子を食べて遅筆の十三夜

角 蒲公英や一口大の日をあげて ~~角 影の字に京の字のある寒さかな~~

角 飛ぶ虫も飛ばざる虫も花の頃 角 下戸の座に鱒大根をつつくなり

角 新緑の「ボール取らせてください」と 角 探梅の往路いつしか復路なる

角 赤青黄その他黴類研究所

角 青大将に鎧も兵も無かりけり

2024・4・19【角川俳句賞2024 プランB 全208】 選21句

5

~~角~~ 手も肩も冷えぬ布団に春を詠む

角 夕立や素足に下駄の白浴衣

角 「の」を伸ばし春のうららの隅田川

角 夜濯につまみ洗ひのもの二三

角 ふるはれて挨つばいぞ春の土

角 流木が海を漂ふ夏の月

角 喜色とは朝寝足りたる笑みにこそ

角 明け方は欠伸の虫もありぬべし

角 今日^{4.20 11:28 am}の今以降は未来卒業す

角 切られては角なき鹿の小さき顔

角 芽吹きたれば隣りも同じ芽吹きなり

~~角~~ お団子を食べて遅筆の十三夜

~~角~~ 蒲公英や一口大の日をあげて

角 ラグビーや母校といふも中退で

角 飛ぶ虫も飛ばざる虫も花の頃

角 下戸の座に鯰大根をつつきをる^{つかまってる 4.20 11:37 am}

角 新緑の「ボール取らせてください」と

角 探梅の往路いつしか復路なる

角 赤青黄その他黴類研究所

角 青大将に鎧も兵も無かりけり

角 毛ものらのその根源の毛虫やも

2024・4・20【角川俳句賞2024 プランB 全21句】選18句

6

角 「の」を伸ばし春のうららの隅田川 角 流木が海を漂ふ夏の月

角 ふるはれて埃つぽいぞ春の土 角 明け方は欠伸の虫もありぬべし

角 喜色とは朝寝足りたる子の笑顔 角 切られては角なき鹿の小さき顔

角 今の今以降は未来卒業す 角 ラグビーや母校といふも中退で

角 芽吹きたれば隣りも同じ芽吹きなり 角 下戸の座に鯽大根をつかまつる

角 飛ぶ虫も飛ばざる虫も花の頃 角 探梅の往路いつしか復路なる

角 新緑の「ボール取らせてください」と

角 赤青黄その他黴類研究所

角 青大将に鎧も兵も無かりけり

角 毛ものらのその根源の毛虫やも

角 夕立や素足に下駄の白浴衣

角 夜濯のつまみ洗ひで済ますもの

世に思ふは女どもをこぼす
 6:18 am
 世に思ふは女どもをこぼす
 4:20 6:6 am
 世に思ふは女どもをこぼす
 6:40 am
 世に思ふは女どもをこぼす
 6:18 am

2024・4・20【角川俳句賞2024 プランB 全22】 選21句

17行3段組14ポ 2024年4月20日 11:35 ↑ 桐10

角「の」を伸ばし春のうららの隅田川
 角ふるはれて埃つぽいぞ春の土

角夕立や素足に下駄の白浴衣
 角夜濯のつまみ洗ひで済ますもの

角喜色とは朝寝足りたる子の笑顔

角流木が海を漂ふ夏の月

角今の今以降は未来卒業す

角明け方は欠伸の虫もありぬべし

角交流の通ふ電線百千鳥

角切られては角なき鹿の小さき顔

角芽吹きたれば隣りも同じ芽吹きなり

角ラグビーや母校といふも中退で

角飛ぶ虫も飛ばざる虫も花の頃

角下戸の座に鯽大根をつかまつる

角新緑の「ボール取らせてください」と

角風邪薬薬法師とも思ふなり

角赤青黄その他黴類研究所

角探梅の往路いつしか復路なる

角青大将に鎧も兵も無かりけり

角下駄の座に鯽大根をつかまつる

角毛ものらのその根源の毛虫やも

角下駄の座に鯽大根をつかまつる

角赤き舌出し夏風邪を訴へる

角下駄の座に鯽大根をつかまつる

砂浜に車を控めて好目へ

ア

Handwritten notes and corrections:
 角「の」を伸ばし春のうららの隅田川 (長く4.20 12:55)
 角ふるはれて埃つぽいぞ春の土 (こもつんひをれば4.20 14:40)
 角喜色とは朝寝足りたる子の笑顔 (c5 大寝後3マ12)
 角今の今以降は未来卒業す (翌朝12:40)
 角交流の通ふ電線百千鳥 (12:06)
 角芽吹きたれば隣りも同じ芽吹きなり
 角飛ぶ虫も飛ばざる虫も花の頃
 角新緑の「ボール取らせてください」と
 角赤青黄その他黴類研究所 (4.20 12:56)
 角青大将に鎧も兵も無かりけり (よるまなく鎧もるをす 昔大将 下6 4.20 13:02)
 角毛ものらのその根源の毛虫やも (毛虫もるをす 昔大将 下6 4.20 12:57)
 角赤き舌出し夏風邪を訴へる (舌出しをす 昔大将 下6 4.20 12:57)
 角流木が海を漂ふ夏の月 (翌朝12:40 13:10)
 角明け方は欠伸の虫もありぬべし (翌朝12:40 12:59)
 角切られては角なき鹿の小さき顔 (の 12:40 14:44)
 角ラグビーや母校といふも中退で (14:44)
 角下戸の座に鯽大根をつかまつる (13:00)
 角風邪薬薬法師とも思ふなり (薬法師 4.20 13:00)
 角探梅の往路いつしか復路なる (13:00)
 角下駄の座に鯽大根をつかまつる (下6 4.20 13:02)
 角下駄の座に鯽大根をつかまつる (下6 4.20 13:02)

2024・4・20【角川俳句賞2024 プランB 全24句】 選21句

角 「の」を長く春のうららの隅田川

角 篩ひをれば埃つぽいぞ春の土

角 喜色とは朝寝足りたる子の頬つべ

角 今の今以降は未来卒業す

角 地虫出づ欠伸の虫もありぬべし

角 電線の中の交流百千鳥

角 芽吹きたれば隣りも同じ芽吹きなり

角 飛ぶ虫も飛ばざる虫も花の頃

角 新緑の「ボール取らせてください」と

角 赤青黄その他黴類研究所

角 家来なき青大将の行方かな

角 毛ものらのその根源の毛虫やも

角 夕立や素足に下駄の白浴衣

角 夜濯のつまみ洗ひで済ますもの

角 流木が海を漂ふ夏の月

角 切られては角なき鹿の小さき顔

角 ラグビーや母校といふも中退で

角 下戸の座に鯽大根をつかまつる

角 診てもらふ風邪に荒れたる舌出して

角 風邪に寝て頼る法師は薬法師

角 探梅の往路いつしか復路なる

角 出まはれぬ事 4.23 4:42 am
 湯りし事に

汽垂てひそかに廻り流竹あり

湘干持 2024 4.23 4:23 am

有難し因邪夜に 4.21 7:15 am
 薬法師

寄り添ふは因邪夜の静の 4.22 22:37
 薬法師

17行3段組14ポ 2024年4月20日 17:47 ↑ 桐10

芽吹いてみれば
 ありあう一羽が
 4.21 7:2 am

地虫出づ
 欠伸の虫もその中に
 23:56
 4.21 07:05 am

芽を吹きてみれば隣りも同じ芽が
 4.21 23:54

地虫出づ欠伸の虫もありぬべし
 4.20 23:52

下戸の座に鯽大根をつかまつる
 4.21 0:10 am

4.22 22:57

隅田川の春の霞を 4.24
うさうさ 15:40

2024・24【角川俳句賞2024

プランB 全28句 選24句

9

角 「の」を「のう」と春のうららの隅田川

角 がにまたと音も濁りて蟹歩く

角 篩はれて埃つばいぞ春の土

角 家来なき青大将の行方かな

角 喜色とは朝寝足りたる子の頬つぺ

角 毛ものらのその根源の毛虫やも

角 今の今以降は未来卒業す

角 夕立や素足に下駄の白浴衣

角 啓蟄や欠伸の虫も遅れつつ

角 夜濯のつまみ洗ひで済ますもの

角 電線の中の交流百千鳥

角 流木が海を漂ふ夏の月

角 同じ芽が同じ高さで芽吹きをる

角 切られては角なき鹿の小さき顔

角 つくづくと吾子の旋毛や潮干狩

角 ラグビーや母校といふも中退で

角 飛ぶ虫も飛ばざる虫も花の頃

角 下戸の座に鯰大根をつかまつる

角 新緑の「ボール取らせてください」と

角 診てもらふ風邪に荒れたる舌を出し

角 赤青黄その他黴類研究所

角 有難や風邪寝の床に薬法師

角 滝壺に密かに廻り続けるは

角 探梅の往路いつしか復路なる

2024・4・24【角川俳句賞2024 プランB 全31】 選28句

17行3段組14ポ 2024年4月24日 19:50 へ1 桐10

角 隅田川春の麗らをらあらあと 4.25 3:36 am
 角 滝壺に密かに廻り続けるは

角 啓蟄や欠伸の虫も遅れ出づ 4.25 6:37 am
 角 家来なき青大将の行方かな

角 喜色とは朝寝足りたる子の頬つべ ありぬ
 角 がにまたの濁音あはれ蟹歩く 4.25 6:50 am

角 篩はれて埃ゆたかに春の土 3:20 am
 角 毛ものらのその根源の毛虫やも 3:27 am

角 電線の中の交流百千鳥 4.25 3:20 am
 角 夕立や素足に下駄の白浴衣

角 今の今以降は未来卒業す
 角 夜濯のつまみ洗ひで済ますもの

角 石鹼玉手玉に取つてみたきかな
 角 流木が海を漂ふ夏の月

角 同じ芽が同じ高さで芽吹きをる 4.25 3:25 am
 角 八月の苦しかりける蟬の殻

角 つくづくと吾子の旋毛や潮干狩 4.25 4:42 am
 角 慰霊碑を刻む火花や秋の暮

角 飛ぶ虫も飛ばざる虫も花の頃
 角 切られては角なき鹿の小さき顔

角 新緑の「ボール取らせてください」と
 角 干乾びて茄子一族の唐辛子

角 赤青黄その他黴類研究所
 角 猫が生れ鼠が生れ夜の長き

3:25 4:25 3:37 am
 3:25 4:25 3:37 am

10

ストローでものぼつかき
 4.25 4:20 am

かにまたエマオセルなわれ
 4.25 3:34 am

2024・4・25【角川俳句賞2024 プランB 全340】 選27句

たろ 4.25 13.10

17行3段組14ポ 2024年4月25日 10:11へ1 桐10

角 さらさらと春のうららの隅田川

角 滝壺に密かに廻り続けるは

角 有難や風邪寝の床に薬法師

角 啓蟄に遅れし虫の欠伸かな

角 家来なき青大将の行方かな

角 ラグビーや母校といふも中退で

角 喜色とは朝寝足りたる子の頬つぺ

角 がにまたと言へどがにまた蟹速し

角 探梅の往路いつしか復路なる

角 篩はれて埃ゆたかに春の土

角 毛ものらのその根源の毛虫やも

附 理キの 幼人まあてせうライキ

角 交流のかよふ電線百千鳥

角 夕立や素足に下駄の白浴衣

文明の 外器や 窓障 泣キセニキ平

13.08

角 今の今以降は未来卒業す

角 夜濯のつまみ洗ひで済ますもの

角 石鹼玉手玉に取つてみたきかな

角 流木が海を漂ふ夏の月

角 同じ芽が同じ高さで芽吹きをる

角 八月は脱ぎ捨てられし蟬の殻

角 つくづくと吾子の旋毛や潮干狩

角 切られては角なき鹿の小さき顔

角 飛ぶ虫も飛ばざる虫も花の頃

角 干乾びて茄子一族の唐辛子

角 新緑の「ボール取らせてください」と

角 猫が生れ鼠が生れ夜の長き

角 赤青黄その他黴類研究所

角 下戸の座に獅大根をつかまつる

2024・4・25【角川俳句賞2024 プランB 全35句】 選33句

12

角 さらああと春のうららの隅田川

角 赤青黄その他黴類研究所

角 啓蟄に遅れし虫の欠伸かな

角 滝壺に密かに廻り続けるは

角 喜色とは朝寝足りたる子の頬つぺ

角 サイダーの甘きストロイ籠に捨つ

角 篩はれて埃ゆたかに春の土

角 家来なき青大将の行方かな

角 交流のかよふ電線百千鳥

角 がにまたと言へどがにまた蟹速し

角 今の今以降は未来卒業す

角 毛ものらのその根源の毛虫やも

角 石鹼玉手玉に取つてみたきかな

角 夕立や素足に下駄の白浴衣

角 同じ芽が同じ高さで芽吹きをる

角 夜濯のつまみ洗ひで済ますもの

角 つくづくと吾子の旋毛や潮干狩

角 流木が海を漂ふ夏の月

角 飛ぶ虫も飛ばざる虫も花の頃

角 八月は脱ぎ捨てられし蟬の殻

角 新緑の「ボール取らせてください」と

角 色なくて寂しからずや秋の風

角 古茶を啜り古書の山にも手を伸ばし

角 心臓に遠き血液手足冷ゆ

角 台風の最中灯台の灯が廻る

角 切られては角なき鹿の小さき顔

角 干乾びて茄子一族の唐辛子

角 猫が生れ鼠が生れ夜の長き

角 未来みな後ろへ落る木の葉髪

角 下戸の座に獅大根をつかまつる

角 有難や風邪寝の床に薬法師

角 ラグビーや母校といふも中退で

角 探梅の往路いつしか復路なる

17行3段組14ポ 2024年4月25日 19:42へ1 桐10

4.26 3.18 am

4.26 0.5 am

4.26 0.7 am

4.26 2.12 am

4.26 0.12 am

4.26 0.22 am

4.26 0.18 am

4.26 0.12 am

2024・4・26 角川俳句賞2024 プランB 全37句 選33句

13

角 さらさらと春のうららの隅田川

角 赤青黄その他黴類研究所

角 台風の最中灯台の灯が廻る

角 啓蟄に遅れし虫の欠伸かな

角 滝壺に密かに廻り続けるは

角 切られては角なき鹿の小さき顔

角 喜色とは朝寝足りたる子の頬つぺ

角 サイダーの甘き空缶籠に投ぐ

角 干乾びて茄子一族の唐辛子

角 篩はれて埃ゆたかに春の土

角 家来なき青大将の行方かな

角 ~~猫が生れ鼠が生れ~~夜の長き

角 交流のかよふ電線百千鳥

角 岩陰へ蟹のがに股遁走す

~~角 未来みな後ろへ~~落る木の葉髪

角 今の今以降は未来卒業す

角 毛ものらのその根源の毛虫やも

角 下戸の座に獅大根をつかまつる

角 石鹼玉手玉に取つてみたきかな

角 夕立や素足に下駄の白浴衣

角 有難や風邪寝の床に薬法師

角 同じ芽が同じ高さで芽吹きたる

角 夜濯のつまみ洗ひで済ますもの

角 ラグビーや母校といふも中退で

角 つくづくと吾子の旋毛や潮干狩

角 流木が日本を目指す夏の月

角 探梅の往路いつしか復路なる

角 飛ぶ虫も飛ばざる虫も花の頃

角 八月は脱ぎ捨てられし蟬の殻

角 新緑の「ボール取らせてください」と

角 色なくて寂しからずや秋の風

角 古茶を啜り古書の山にも手を伸ばし

角 心臓に遠き血液手足冷ゆ

2024・4・26【角川俳句賞2024プランB 全305】 選38句

角 暖かな長閑な日々21のありしこと

角 雷20の歡心を買ふ避雷針

角 さらあらあと春のうららの隅田川

角 滝壺に密かに廻り続けるは

角 啓蟄に遅れし虫の欠伸かな

角 サイダーの甘き空缶籠に投ぐ

角 喜色とは朝寝足りたる子の頬っぺ

角 家来なき青大将の行方かな

角 篩はれて埃ゆたかに春の土

角 岩陰へ蟹のがに股遁走す

角 交流のかよふ電線百千鳥

角 毛ものらのその根源の毛虫やも

角 今の今以降は未来卒業す

角 夕立や素足に下駄の白浴衣

角 石鹼玉手玉に取つてみたきかな

角 夜濯のつまみ洗ひで済ますもの

角 破裂して風船の息散り散りに

角 流木が日本を目指す夏の月

角 雁風呂を焚くやそこの流木も

角 八月は脱ぎ捨てられし蟬の殻

角 同じ芽が同じ高さで芽吹きたる

角 色なくて寂しからずや秋の風

角 つくづくと吾子の旋毛や潮干狩

角 心臓に遠き血液手足冷ゆ

角 でんとあるピアノブラック桃の花

角 灯台の投光廻る颱風裡

角 飛ぶ虫も飛ばざる虫も花の頃

角 切られては角なき鹿の小さき顔

角 新緑の「ボール取らせてください」と

角 干乾びて茄子一族の唐辛子

角 古茶を啜り古書の山にも手を伸ばし

角 下戸の座に鯛大根をつかまつる

角 赤青黄その他黴類研究所

角 関東をカントと言へり関東煮

17行3段組14ポ 2024年4月26日 19:23 へ1 桐10

角 今年はやふつつか者の二日なり
角 有難や風邪寝の床に薬法師
角 ラグビーや母校といふも中退で
角 探梅の往路いつしか復路なる

咲るものかまては咲る
花の茶をよめて再び咲れり
2024 4.27 13:13

に 4.26
に 21:53

2024・4・27【角川俳句賞2024 プランB 全40句】選38句

15

角 暖かで長閑な日々でありしこと

角 雷の歓心を買ふ避雷針

角 今年はやふつつか者の二日なり

角 さらあらあと春のうららの隅田川

角 滝壺に密かに廻り続けるは

角 有難や風邪寝の床に薬法師

角 喜色とは朝寝足りたる子の頬つぺ

角 サイダーの甘き空缶籠に投ぐ

角 ラグビーや母校といふも中退で

角 啓蟄に遅れし虫の欠伸かな

角 家来なき青大将の行方かな

角 探梅の往路いつしか復路なる

角 篩はれて埃ゆたかに春の土

角 岩陰へ蟹のがに股遁走す

角 花の蜜囀るものが来ては吸ふ

角 毛ものらのその究極の毛虫やも

角 交流のかよふ電線百千鳥

角 夕立や素足に下駄の白浴衣

角 今の今以降は未来卒業す

角 夜濯のつまみ洗ひで済ますもの

角 石鹼玉手玉に取つてみたきかな

角 流木が日本を目指す夏の月

角 破裂して風船の息散り散りに

角 八月は脱ぎ捨てられし蟬の殻

角 同じ芽が同じ高さで芽吹きたる

角 色なくて寂しからずや秋の風

角 つくづくと吾子の旋毛や潮干狩

角 心臓に遠き血液手足冷ゆ

角 ピアノにはピアノブラック桃の花

角 灯台の投光廻る颱風裡

角 飛ぶ虫も飛ばざる虫も花の頃

角 切られでは角なき鹿の小さき顔

角 新緑の「ボール取らせてください」と

角 乾びけり茄子一族の唐辛子

角 古茶を啜り古書の山にも手を伸ばし

角 下戸の座に鱒大根をつかまつる

角 赤青黄その他黴類研究所

角 関東をカントと言へり関東煮

428 13:14
428 13:13

428 13:15

2024.4.28 角川俳句賞2024 プランB 全41句 選41句

角 暖かで長閑な日々のあるりしこと

角 明け方に背ナを割りなば涼しかる

角 関東をカントと訛る関東煮

角 喜色とは朝寝足りたる子の頬つぺ

角 雷の歓心を買ふ避雷針

角 今年はやふつつか者の二日なり

角 さらあらあと春のうららの隅田川

角 滝壺に密かに廻り続けるは

角 閉め切れば障子の隙間風聞こゆ

角 篩はれて埃ゆたかに春の土

角 サイダーの甘き空缶籠に投ぐ

角 雨音の消えしは雪か子の寝息

角 花の蜜囀るものが来ては吸ふ

角 家来なき青大将の行方かな

角 有難や風邪寝の床に薬法師

角 交流のかよふ電線百千鳥

角 岩陰へ蟹のがに股遁走す

角 ラグビーの母校といふも中退で

角 啓蟄に遅れし虫の欠伸かな

角 毛ものらのその純血の毛虫やも

角 探梅の往路いつしか復路なる

角 同じ芽が同じ高さで芽吹きたる

角 夕立や素足に下駄の白浴衣

角 今の今以降は未来卒業す

角 夜濯のつまみ洗ひで済ますもの

角 本服を脱ぎおれば暖か木々に雪

角 石鹼玉手玉に取つてみたきかな

角 流木が日本を目指す夏の月

角 2024.4.29 0:08 am

角 破裂して風船の息散り散りに

角 八月は脱ぎ捨てられし蟬の殻

角 つくづくと吾子の旋毛や潮干狩

角 色なくて寂しからずや秋の風

角 ピアノにはピアノブラック桃の花

角 心臓に遠き血液手足冷ゆ

角 飛ぶ虫も飛ばざる虫も花の頃

角 灯台の投光廻る颯風裡

角 新緑の「ボール取らせてください」と

角 切られては角なき鹿の小さき顔

角 古茶を啜り古書の山にも手を伸ばし

角 赤く長く茄子一族の唐辛子

角 赤青黄その他黴類研究所

角 下戸の座に鱒大根をつかまつる

この句は... 17:50

16

メルカトル... 2024.4.29 17:48

本服を脱ぎおれば暖か木々に雪... 2024.4.29 0:08 am

4.29 10:32 am

41 am

42 am

4:29 am

4:29 10:35 am

10:45 am

2024・4・29 【角川俳句賞2024 プランB 全445】 選43句

17行3段組14部 2024年4月29日 22:48 へ1 桐10

角 暖かで長閑な日々もありしこと
角 喜色とは朝寝足りたる子の頬つぺ
角 雷の歓心を買ふ避雷針
角 今年はやふつつか者の二日なり
角 関東をカントと訛る関東煮

角 明らか方に背ナを割りなば涼しかる
角 滝壺に密かに廻り続けけり
角 サイダーの甘き空缶籠に投ぐ
角 岩陰へ蟹のがに股遁走す
角 毛ものらのその純血の毛虫やも
角 夕立や素足に下駄の白浴衣
角 流木の打ち上げられし夏の月
角 八月は脱ぎ捨てられし蟬の殻
角 色なくて寂しからずや秋の風
角 心臓に遠き血液手足冷ゆ
角 灯台の光の束や颱風裡
角 切られては角なき鹿の小さき顔
角 赤く長く茄子一族の唐辛子
角 下戸の座に鱒大根をつかまつる

角 閑め切れば障子の隙間風聞こゆ
角 着膨れて重たかりける雪の木々
角 雨音の消えしは雪か子の寢息
角 有難や風邪寝の床に薬法師
角 ラグビーの母校といふも中退で
角 メルカトル図法に開く寒卵
角 探梅の往路いつしか復路なる

角 閉め切れば障子の隙間風聞こゆ
角 着膨れて重たかりける雪の木々
角 雨音の消えしは雪か子の寢息
角 有難や風邪寝の床に薬法師
角 ラグビーの母校といふも中退で
角 メルカトル図法に開く寒卵
角 探梅の往路いつしか復路なる

角 交流のかよふ電線百千鳥
角 啓蟄に遅れし虫の欠伸かな
角 同じ芽が同じ高さで芽吹きたる
角 今の今以降は未来卒業す
角 石鹼玉手玉に取つてみたきかな
角 破裂して風船の息散り散りに
角 つくづくと吾子の旋毛や潮干狩
角 ピアノにはピアノブラック桃の花
角 飛ぶ虫も飛ばざる虫も花の頃
角 新緑の「ボール取らせてください」と
角 古茶を啜り古書の山にも手を伸ばし
角 赤青黄その他黴類研究所

角 交流のかよふ電線百千鳥
角 啓蟄に遅れし虫の欠伸かな
角 同じ芽が同じ高さで芽吹きたる
角 今の今以降は未来卒業す
角 石鹼玉手玉に取つてみたきかな
角 破裂して風船の息散り散りに
角 つくづくと吾子の旋毛や潮干狩
角 ピアノにはピアノブラック桃の花
角 飛ぶ虫も飛ばざる虫も花の頃
角 新緑の「ボール取らせてください」と
角 古茶を啜り古書の山にも手を伸ばし
角 赤青黄その他黴類研究所

角 交流のかよふ電線百千鳥
角 啓蟄に遅れし虫の欠伸かな
角 同じ芽が同じ高さで芽吹きたる
角 今の今以降は未来卒業す
角 石鹼玉手玉に取つてみたきかな
角 破裂して風船の息散り散りに
角 つくづくと吾子の旋毛や潮干狩
角 ピアノにはピアノブラック桃の花
角 飛ぶ虫も飛ばざる虫も花の頃
角 新緑の「ボール取らせてください」と
角 古茶を啜り古書の山にも手を伸ばし
角 赤青黄その他黴類研究所

角 交流のかよふ電線百千鳥
角 啓蟄に遅れし虫の欠伸かな
角 同じ芽が同じ高さで芽吹きたる
角 今の今以降は未来卒業す
角 石鹼玉手玉に取つてみたきかな
角 破裂して風船の息散り散りに
角 つくづくと吾子の旋毛や潮干狩
角 ピアノにはピアノブラック桃の花
角 飛ぶ虫も飛ばざる虫も花の頃
角 新緑の「ボール取らせてください」と
角 古茶を啜り古書の山にも手を伸ばし
角 赤青黄その他黴類研究所

角 交流のかよふ電線百千鳥
角 啓蟄に遅れし虫の欠伸かな
角 同じ芽が同じ高さで芽吹きたる
角 今の今以降は未来卒業す
角 石鹼玉手玉に取つてみたきかな
角 破裂して風船の息散り散りに
角 つくづくと吾子の旋毛や潮干狩
角 ピアノにはピアノブラック桃の花
角 飛ぶ虫も飛ばざる虫も花の頃
角 新緑の「ボール取らせてください」と
角 古茶を啜り古書の山にも手を伸ばし
角 赤青黄その他黴類研究所

角 交流のかよふ電線百千鳥
角 啓蟄に遅れし虫の欠伸かな
角 同じ芽が同じ高さで芽吹きたる
角 今の今以降は未来卒業す
角 石鹼玉手玉に取つてみたきかな
角 破裂して風船の息散り散りに
角 つくづくと吾子の旋毛や潮干狩
角 ピアノにはピアノブラック桃の花
角 飛ぶ虫も飛ばざる虫も花の頃
角 新緑の「ボール取らせてください」と
角 古茶を啜り古書の山にも手を伸ばし
角 赤青黄その他黴類研究所

角 交流のかよふ電線百千鳥
角 啓蟄に遅れし虫の欠伸かな
角 同じ芽が同じ高さで芽吹きたる
角 今の今以降は未来卒業す
角 石鹼玉手玉に取つてみたきかな
角 破裂して風船の息散り散りに
角 つくづくと吾子の旋毛や潮干狩
角 ピアノにはピアノブラック桃の花
角 飛ぶ虫も飛ばざる虫も花の頃
角 新緑の「ボール取らせてください」と
角 古茶を啜り古書の山にも手を伸ばし
角 赤青黄その他黴類研究所

角 交流のかよふ電線百千鳥
角 啓蟄に遅れし虫の欠伸かな
角 同じ芽が同じ高さで芽吹きたる
角 今の今以降は未来卒業す
角 石鹼玉手玉に取つてみたきかな
角 破裂して風船の息散り散りに
角 つくづくと吾子の旋毛や潮干狩
角 ピアノにはピアノブラック桃の花
角 飛ぶ虫も飛ばざる虫も花の頃
角 新緑の「ボール取らせてください」と
角 古茶を啜り古書の山にも手を伸ばし
角 赤青黄その他黴類研究所

角 交流のかよふ電線百千鳥
角 啓蟄に遅れし虫の欠伸かな
角 同じ芽が同じ高さで芽吹きたる
角 今の今以降は未来卒業す
角 石鹼玉手玉に取つてみたきかな
角 破裂して風船の息散り散りに
角 つくづくと吾子の旋毛や潮干狩
角 ピアノにはピアノブラック桃の花
角 飛ぶ虫も飛ばざる虫も花の頃
角 新緑の「ボール取らせてください」と
角 古茶を啜り古書の山にも手を伸ばし
角 赤青黄その他黴類研究所

角 交流のかよふ電線百千鳥
角 啓蟄に遅れし虫の欠伸かな
角 同じ芽が同じ高さで芽吹きたる
角 今の今以降は未来卒業す
角 石鹼玉手玉に取つてみたきかな
角 破裂して風船の息散り散りに
角 つくづくと吾子の旋毛や潮干狩
角 ピアノにはピアノブラック桃の花
角 飛ぶ虫も飛ばざる虫も花の頃
角 新緑の「ボール取らせてください」と
角 古茶を啜り古書の山にも手を伸ばし
角 赤青黄その他黴類研究所

角 交流のかよふ電線百千鳥
角 啓蟄に遅れし虫の欠伸かな
角 同じ芽が同じ高さで芽吹きたる
角 今の今以降は未来卒業す
角 石鹼玉手玉に取つてみたきかな
角 破裂して風船の息散り散りに
角 つくづくと吾子の旋毛や潮干狩
角 ピアノにはピアノブラック桃の花
角 飛ぶ虫も飛ばざる虫も花の頃
角 新緑の「ボール取らせてください」と
角 古茶を啜り古書の山にも手を伸ばし
角 赤青黄その他黴類研究所

角 交流のかよふ電線百千鳥
角 啓蟄に遅れし虫の欠伸かな
角 同じ芽が同じ高さで芽吹きたる
角 今の今以降は未来卒業す
角 石鹼玉手玉に取つてみたきかな
角 破裂して風船の息散り散りに
角 つくづくと吾子の旋毛や潮干狩
角 ピアノにはピアノブラック桃の花
角 飛ぶ虫も飛ばざる虫も花の頃
角 新緑の「ボール取らせてください」と
角 古茶を啜り古書の山にも手を伸ばし
角 赤青黄その他黴類研究所

特りのし年ひさし(15) (はし止みたる) 止みたる(15) 4:30 9:9 am

17

おれしおも おれざる木を 雪の白

の雪の白妙木々を 手なく木を白く

木々や今雪に著眩れせんか 0:21 am

角 探梅の往路いつしか復路なる

角 雨音の消えしは雪か子の寢息 4:30 0:13 am

角 今年はやふつつか者の二日なり

2024. 4. 30 角川俳句賞 2024 プラン B 全46 (18) 選41句

2024. 5. 3 5:22 am
花の面
これにあつたせいで
花の面

丸社賞
此の頃の
糸のしづくか
さみ水子
田女

角 暖かで長閑な日々もありしこと
角 喜色とは朝寝足りたる子の頬つぺ
角 らあらあと春のうららの隅田川
角 篩はれて埃ゆたかに春の土
角 花の蜜なめて再び囁りに
角 交流のかよふ電線百千鳥
角 啓蟄に遅れし虫の欠伸かな
角 同じ芽が同じ高さで芽吹きたる
角 今の今以降は未来卒業す
角 石峻玉手玉に取つてみたきかな
角 破裂して風船の息散り散りに
角 つくづくと吾子の旋毛を潮干狩
角 ピアノにはピアノブラック桃の花
角 飛ぶ虫も飛ばざる虫も花の頃
角 新緑の「ボール取らせてください」と
角 古茶を啜り古書の山にも手を伸ばし
角 赤青黄その他黴類研究所

角 明け方に背ナを割りなば涼しかる
角 雷の歓心を買ふ避雷針
角 滝壺に密かに廻り続けけり
角 サイダーの甘き空缶籠に投ぐ
角 家来なき青大将の行方かな
角 岩陰へ蟹のがに股遁走す
角 毛ものらのその純血の毛虫やも
角 夜濯のつまみ洗ひで済ますもの
角 流木を浜に打ち上げ夏の月
角 八月は脱ぎ捨てられし蟬の殻
角 色なくて寂しからずや秋の風
角 赤く長く茄子一族の唐辛子
角 灯台の光の束や颱風裡
角 心臓に遠き血液手足冷ゆ
角 切られては角なき鹿の小さき顔
角 下戸の座に獅大根をつかまつる
角 関東をカントと訛る関東煮

角 今年はやふつつか者の二日なり
角 閉め切れば障子の隙間風聞こゆ
角 枯木にも枯れざる木にも雪白し
角 雨音の消えしは雪か子の寝息
角 有難や風邪寝の床に薬法師
角 ラグビーの母校といふも中退で
角 メルカトル図法に開く寒卵

おれ腹の痒きところや等あれて
つむいぬしほくく雲地にほむけつ
星は今朝の星の清かな
星は今朝の星の清かな
星は今朝の星の清かな
星は今朝の星の清かな
星は今朝の星の清かな

20. 24. 5. 3 【角川俳句賞2024 プランB 全47句 選43句】

19

松みよもの国をなす

17行3段組14ポ 2024年5月3日 13:05 桐10

角 暖かで長閑な日々のありしこと

角 松からの風竹からの風薫る

角 関東をカントと訛る関東煮

角 喜色とは朝寝足りたる子の頬つぺ

角 雷の歓心を買ふ避雷針

角 今年はやふつつか者の二日なり

角 らああと春のうららの隅田川

角 滝壺に密かに廻り続けけり

角 閉め切れば障子の隙間風聞こゆ

角 篩はれて埃ゆたかに春の土

角 サイダーの甘き空缶籠に投ぐ

角 枯木にも枯れざる木にも雪白し

角 花の蜜なめて再び囀りに

角 家来なき青大将の行方かな

角 雨音の消えしは雪か子の寢息

角 交流のかよふ電線百千鳥

角 岩陰へ蟹のがに股遁走す

角 皺腹の痒きところや着膨れて

角 啓蟄に遅れし虫の欠伸かな

角 毛ものらのその純血の毛虫やも

角 有難や風邪寝の床に薬法師

角 同じ芽が同じ高さで芽吹きたる

角 夜濯のつまみ洗ひで済ますもの

角 ラグビーの母校といふも中退で

角 今の今以降は未来卒業歌

角 流木の旅の終りを夏の月

角 メルカトル図法に開く寒卵

角 石鹼玉手玉に取つてみたきかな

角 八月は脱ぎ捨てられし蟬の殻

角 つくづくと吾子の旋毛を潮干狩

角 つむじ風露地に遊ぶや猫じやらし

角 墨するは今朝の董の雫もて

角 色なくて寂しからずや秋の風

角 ピアノにはピアノブラック桃の花

角 赤く長く茄子一族の唐辛子

角 飛ぶ虫も飛ばざる虫も花の頃

角 灯台の光の束や颯風裡

角 新緑の「ボール取らせてください」と

角 心臓に遠き血液手足冷ゆ

角 古茶を啜り古書の山にも手を伸ばし

角 切られては角なき鹿の小さき顔

角 赤青黄その他黴類研究所

角 下戸の座に鱒大根をつかまつる

表の土壤やこれ
232111 5.4
5.49

5.4 5.45 am
232111

5.4 5.48 am

5.4
0156 am

雪+枝

2024・5・4【角川俳句賞2024 プランB 全48句 選43句】

五月 年まよ

20

角 暖かで長閑な日々のありしこと

角 松からも竹からも風薫るなり

角 喜色とは朝寝足りたる子の頬つぺ

角 雷の歓心を買ふ避雷針

角 歌ふなり春のうらあらか隅田川

角 滝壺に密かに廻り続けけり

角 春の土ほこり豊かに飾ひけり

角 サイダーの甘き空缶籠に投ぐ

角 花の蜜なめて再び囁りに

角 家来なき青大将の行方かな

角 交流のかよふ電線百千鳥

角 岩陰へ蟹のがに股遁走す

角 啓蟄に遅れし虫の欠伸かな

角 毛ものらのその純血の毛虫やも

角 同じ芽が同じ高さで芽吹きたる

角 夜濯のつまみ洗ひで済ますもの

角 今の今以降は未来卒業歌

角 流木の旅の終りし夏の月

角 石鹼玉手玉に取つてみたきかな

角 八月は脱ぎ捨てられし蟬の殻

角 つくづくと吾子の旋毛を潮干狩

角 つむじ風露地に遊ぶや猫じやらし

角 墨するは今朝の董の雫もて

角 色なくて寂しからずや秋の風

角 ピアノにはピアノブラック桃の花

角 赤く長く茄子一族の唐辛子

角 飛ぶ虫も飛ばざる虫も花の頃

角 灯台の光の束や颱風裡

角 新緑の「ボール取らせてください」と

角 心臓に遠き血管手足冷ゆ

角 古茶を啜り古書の山にも手を伸ばし

角 切られては角なき鹿の小さき顔

角 赤青黄その他黴類研究所

角 下戸の座に鱒大根をつかまつる

角 関東をカントと訛る関東煮

角 今年はやふつつか者の二日なり

角 閉め切れば障子の隙間風聞こゆ

角 枯枝に枯れざる枝に雪白し

角 雨音の消えしは雪か子の寢息

角 皺腹の痒きところや着膨れて

角 ラグビーの母校といふも中退で

角 メルカトル図法に開く寒卵

角 有難や風邪寝の床に薬法師

良子足の欠伸の公か
地をまよる 5.4
14:10

13:50
はあはあうと、さささあ

12:48 am
5.4
10:17 am

14:12

10:45 am

礼拝の
5.4
10:40 am

〔皮膚-痒〕

北風の空路地に
おくろりの空路地はよくまよる
5.4
10:43 am

2024・5・4【角川俳句賞2024プランB全50句】選44句

21

角 暖かで長閑な日々もありしこと
角 松からも竹からも風薫るなり
角 閉め切れれば障子の隙間風聞こゆ

角 喜色とは朝寝足りたる子の頬つべ
角 雷の歓心を買ふ避雷針
角 枯枝に枯れざる枝に雪白し

角 歌ふなり、はあるのうと、うらあ
角 滝壺に密かに廻り続けけり
角 雨音の消えしは雪か子の寝息

角 春の土ほこり豊かに篩ひけり
角 サイダーの甘き空缶籠に投ぐ
角 皸腹の痒きところや着膨れて

角 花の蜜なめて再び囀りに
角 家来なき青大将の行方かな
角 今年はやふつつか者の二日なり

角 交流のかよふ電線百千鳥
角 岩陰へ蟹のがに股遁走す
角 北風の露地に遊ぶやつむじ風

角 寝不足の欠伸の虫が地を出づる
角 毛ものらのその純血の毛虫やも
角 ラグビーの母校といふも中退で

角 同じ芽が同じ高さで芽吹きたる
角 夜濯のつまみ洗ひで済ますもの
角 有難や風邪寝の床に薬法師

角 今の今以降は未来卒業歌
角 八月は脱ぎ捨てられし蟬の殻
角 メルカトル図法に開く寒卵

角 石鹼玉手玉に取つてみたきかな
角 諦めたころに大きく揚花火
角 春待つや紙石鹼の薄ピンク

角 つくづくと吾子の旋毛を潮干狩
角 色なくて寂しからずや秋の風
角 春待つや紙石鹼の薄ピンク

角 墨するに董の雫あつめけり
角 赤く長く茄子一族の唐辛子
角 春待つや紙石鹼の薄ピンク

角 ピアノにはピアノブラック桃の花
角 灯台の光の束や颱風裡
角 春待つや紙石鹼の薄ピンク

角 飛ぶ虫も飛ばざる虫も花に来よ
角 心臓に遠き血管手足冷ゆ
角 春待つや紙石鹼の薄ピンク

角 新緑の「ボール取らせてください」と
角 切られては角なき鹿の小さき顔
角 春待つや紙石鹼の薄ピンク

角 古茶を嚙り古書の山にも手を伸ばし
角 下戸の座に鱒大根をつかまつる
角 春待つや紙石鹼の薄ピンク

角 赤青黄その他黴類研究所
角 関東をカントと訛る関東煮
角 春待つや紙石鹼の薄ピンク

16215

2024・5・4【角川俳句賞2024 プランB 全52句】 選47句

22

角 暖かで長閑な日々のありしこと

角 古茶を嚙り古書の山にも手を伸ばし

角 切られては角なき鹿の小さき顔

角 喜色とは朝寝足りたる子の頬つぺ

角 抜きん出て次の蕾や花菖蒲

角 下戸の座に鱒大根をつかまづる

角 歌ふなり、はああるの、う、らああと

角 赤青黄その他黴類研究所

角 関東をカントと訛る関東煮

角 春の土ほこり豊かに篩ひけり

角 松からも竹からも風薫るなり

角 閉め切れれば障子の隙間風聞こゆ

角 花の蜜なめて再び囁りに

角 雷の歓心を買ふ避雷針

角 枯枝に枯れざる枝に雪白し

角 交流のかよふ電線百千鳥

角 滝壺に密かに廻り続けけり

角 雨音の消えしは雪か子の寝息

角 寝不足の欠伸の虫が地を出づる

角 サイダーの甘き空缶籠に投ぐ

角 着膨れて皺腹痒きところかな

角 同じ芽が同じ高さで芽吹きたる

角 家来なき青大将の行方かな

角 今年はやふつつか者の二日なり

角 今の今以降は未来卒業歌

角 岩陰へ蟹のがに股遁走す

角 北風の露地に遊ぶやつむじ風

角 石鱈玉手玉に取つてみたきかな

角 毛ものらのその純血の毛虫やも

角 ラグビーの母校といふも中退で

角 つくづくと吾子の旋毛を潮干狩

角 夜濯のつまみ洗ひで済ますもの

角 有難や風邪寝の床に薬法師

角 墨するに董の雫あつめけり

角 八月は脱ぎ捨てられし蟬の殻

角 メルカトル図法に開く寒卵

角 ピアノにはピアノブラック桃の花

角 不発かと空に消えたる花火爆ず

角 春待つや紙石鱈の薄ピンク

角 飛ぶ虫も飛ばざる虫も花に来よ

角 色なくて寂しからずや秋の風

角 菜の花の花を終へたる黄色かな

角 赤く長く茄子一族の唐辛子

角 葉桜の緑枝垂るる水面かな

角 束なして灯台の灯や颱風裡

角 新緑の「ボール取らせてください」と

角 心臓に遠き血管手足冷ゆ

角 菜の花の花を終へたる黄色かな
こころを
5.5
1:30 am

1:45 am

角 不発かと空に消えたる花火爆ず
田心ひし
よな
1:47 am

角 今年はやふつつか者の二日なり
女差を
1:38 am

角 着膨れて皺腹痒きところかな
1:35 am

角 枯枝に枯れざる枝に雪白し
1:39 am

角 下戸の座に鱒大根をつかまづる
1:33 am

2024.5.5【角川俳句賞2024 プランB 全53句】 選48句

角 暖かで長閑な日々のありしこと

角 喜色とは朝寝足りたる子の頬つぺ

角 歌ふなり、はああるの、う、らあらの

角 春の土ほこり豊かに飾ひけり

角 花の蜜なめて再び囁りに

角 交流のかよふ電線百千鳥

角 寝不足の欠伸の虫が地を出づる

角 同じ芽が同じ高さで芽吹きたる

角 今の今以降は未来卒業歌

角 石鹸玉手玉に取つてみたきかな

角 つくづくと吾子の旋毛を潮干狩

角 墨するに董の雫あつめけり

角 ピアノにはピアノブラック桃の花

角 飛ぶ虫も飛ばざる虫も花に來よ

角 菜の花の花を終へたるうす緑

角 葉桜の緑枝垂るる水面かな

角 新緑の「ボール取らせてください」と

角 古茶を嚙り古書の山にも手を伸ばし

角 抜きん出て次の蕾や花菖蒲

角 赤青黄その他黴類研究所

角 松からも竹からも風薫るなり

角 雷の歓心を買ふ避雷針

角 滝壺に密かに廻り続けけり

角 万緑に幹は日陰の力持ち

角 サイダーの甘き空缶籠に投ぐ

角 家來なき青大将の行方かな

角 岩陰へ蟹のがに股遁走す

角 毛ものらのその純血の毛虫やも

角 夜濯のつまみ洗ひで済ますもの

角 八月は脱ぎ捨てられし蟬の殻

角 不発かと思ひし空に花火爆ず

角 色なくて寂しからずや秋の風

角 赤く長く茄子一族の唐辛子

角 束なして灯台の灯や颱風裡

角 心臓に遠き血管手足冷ゆ

角 切られては角なき鹿の小さき顔

角 下戸の座に獅大根を仕る

角 関東をカントと訛る関東煮

角 閉め切れば障子の隙間風聞こゆ

角 枯枝に枯れざる枝に雪が降る

角 雨音の消えしは雪か子の寝息

角 今年はやふつつか者の二日なり

角 北風の露地に遊ぶやつむじ風

角 ラグビーの母校といふも中退で

角 大寒の皺腹痒きところ搔く

角 有難や風邪寝の床に薬法師

角 メルカトル図法に開く寒卵

角 春待つや紙石鹸の薄ピンク

角 春待つや紙石鹸の薄ピンク

角 春待つや紙石鹸の薄ピンク

角 春待つや紙石鹸の薄ピンク

傍に付のその他 2024 5.7 10 am 4.2 他 15:40 句集 4.2 他 15:56 16:01 付の 4.2 他 3.3 他 3.7 3.7

23

4.7 10.5 15.1 5.7 16.2 5.5 21:41

5.6 21:42

2024.5.7【角川俳句賞2024 プランB 全57句 選50句】

角 暖かで長閑な日々のあるしこと 角 古茶を啜り古書の山にも手を伸ばし

角 喜色とは朝寝足りたる子の頬つぺ 角 抜きん出て次の蕾や花菖蒲

角 歌ふなり、はああるの、う、らあらの 角 赤青黄その他黴類研究所

角 塩辛き海を薄めて雪解川 角 松からも竹からも風薫るなり

角 春の土ほこり豊かに篩ひけり 角 雷の歡心を買ふ避雷針

角 花の蜜なめて再び囀りに 角 滝壺に密かに廻り続けけり

角 交流のかよふ電線百千鳥 角 万緑の葉隠れに幹太るなり

角 寝不足の欠伸の虫が地を出づる 角 サイダーの甘き空缶籠に投ぐ

角 同じ芽が同じ高さで芽吹きたる 角 熱き地の1ミリ上を蟻あゆむ

角 今の今以降は未来卒業歌 角 家来なき青大将の行方かな

角 石鹼玉手玉に取つてみたきかな 角 岩陰へ蟹のがに股遁走す

角 つくづくと吾子の旋毛を潮干狩 角 毛ものらのその純血の毛虫やも

角 墨するに董の雫あつめけり 角 夜濯のつまみ洗ひで済ますもの

角 ピアノにはピアノブラック桃の花 角 八月は脱ぎ捨てられし蟬の殻

角 飛ぶ虫も飛ばざる虫も花に来よ 角 不発かと思ひし空に花火爆ず

角 葉桜の緑枝垂るる水面かな 角 色なくて寂しからずや秋の風

角 新緑の「ボール取らせてください」と 角 赤く長く茄子一族の唐辛子

17行3段組14ポ 2024年5月7日 11:48 へ1 桐10
角 束なして灯台の灯や颯風裡
角 また一つ余命の箱に流れ星
角 心臓に遠き血管手足冷ゆ

角

角 切られては角なき鹿の小きき顔

角 下戸の座に獅大根を仕る

角 関東をカントと訛る関東煮

角 閉め切れば障子の隙間風聞こゆ

角 枯枝に枯れざる枝に雪が降る

角 雨音の消えしは雪か子の寝息

角 今年はやふつつか者の二日なり

角 北風の露地に遊ぶやつむじ風

角 ラグビーの母校といふも中退で

角 大寒の皺腹痒きところ搔く

角 有難や風邪寝の床に薬法師

角 メルカトル図法に開く寒卵

角 春待つや紙石鹼の薄ピンク

2024.5.7【角川俳句賞2024 プランB 全58句】 選48句

25
タイト

角 暖かで長閑な日々のありしこと 角 古茶を啜り古書の山にも手を伸ばし

角 喜色とは朝寝足りたる子の頬つぺ 角 抜きん出て次の蕾や花菖蒲

角 歌ふなり、はああるのほう、らあらの 角 赤青黄その他黴類研究所

角 塩辛き海を薄めて雪解川 角 松からも竹からも風薫るなり

角 春の土ほこり豊かに篩ひけり 角 雷の歡心を買ふ避雷針

角 花の蜜なめて再び囀りに 角 幹太し万緑を地に繋ぎ止め

角 交流のかよふ電線百千鳥 角 サイダーの甘き空缶籠に投ぐ

角 同じ種が同じ高さに芽吹きたる 角 熱き地の1ミリ上を蟻あゆむ

角 今の今以降は未来卒業歌 角 家来なき青大将の行方かな

角 石鹼玉手玉に取つてみたきかな 角 岩陰へ蟹のがに股遁走す

角 つくづくと吾子の旋毛を潮干狩 角 毛ものらのその純血の毛虫やも

角 墨するに董の雫あつめけり 角 夜濯のつまみ洗ひで済ますもの

角 墨するに今朝の董の雫かな 角 八月は脱ぎ捨てられし蟬の殻

角 ピアノにはピアノラック桃の花 角 不発かと思ひし空に花火爆ず

角 飛ぶ虫も飛ばざる虫も花に来よ 角 色なくて寂しからずや秋の風

角 葉桜の緑しだるる水面かな 角 赤く長く茄子一族の唐辛子

角 新緑の「ボール取らせてください」と 角 灯台が黄泉を照らせる颱風裡

17行3段組14ポ 2024年5月7日 18:28 へ1 桐10

花のふりば 2024 5.8 1:15 am

花のふりば 2024 5.8 1:15 am

5.7 20:42

5.8 6:36 am

5.8 6:41 am

2024・5・8【角川俳句賞2024 プランB 全59句】 選50句

15

26

角 引力を楽しむ春やゆやゆよん

角 新緑の「ボール取らせてください」と

角 赤く長く茄子一族の唐辛子

角 暖かで長閑な日々のありしこと

角 古茶を啜り古書の山にも手を伸ばし

角 灯台が黄泉路を照らす野分の夜

角 喜色とは朝寝足りたる子の頬つぺ

角 抜きん出て次の蕾や花菖蒲

角 心臓に遠き血管手足冷ゆ

角 歌ふなり、はああるの、う、らあらの

角 赤青黄その他黴類研究所

角 切られては角なき鹿の小さき顔

角 塩辛き海に驚く雪解川

角 松からも竹からも風薫るなり

角 下戸の座に獅大根を仕る

角 春の土ほこり豊かに篩ひけり

角 雷の歓心を買ふ避雷針

角 関東をカントと訛る関東煮

角 花の蜜なめて再び囀りに

角 幹太く万緑を地に繋ぎ止む

角 閉め切れば障子の隙間風聞こゆ

角 交流のかよふ電線百千鳥

角 サイダーの甘き空缶籠に投ぐ

角 枯枝に枯れざる枝に雪が降る

角 同じ種が同じ高さに芽吹きたる

角 熱き地の1ミリ上を蟻あゆむ

角 雨音の消えしは雪か子の寝息

角 今の今以降は未来卒業歌

角 家来なき青大将の行方かな

角 今年はやふつつか者の二日なり

角 石鹼玉手玉に取つてみたきかな

角 岩陰へ蟹のがに股遁走す

角 北風の露地に遊ぶやつむじ風

角 つくづくと吾子の旋毛を潮干狩

角 毛ものらのその純血の毛虫やも

角 ラグビーの母校といふも中退で

角 墨するに今朝の董の雫かな

角 夜濯のつまみ洗ひで済ますもの

角 俳句・チョコ・切干・するめ冬籠

角 ピアノにはピアノブラック桃の花

角 八月は脱ぎ捨てられし蟬の殻

角 大寒の皺腹痒し搔くべかり

角 飛ぶ虫も飛ばざる虫も花に来よ

角 不発かと思ひし空に花火爆ず

角 有難や風邪寝の床に薬法師

角 花の雨しだるる枝にしたたるよ

角 魚籠あげて澄む水抜けて魚籠残る

角 春待つや紙石鹼の良い匂ひ

角 葉桜の緑しだるる水面かな

角 色なくて寂しからずや秋の風

この花巻の国が
迷わすし 2:23
2024/5.9 am

毛虫の毛毛 5:9
毛虫の足跡か 5:50
am

5:9
16:55

5:9
17:01

2024・5・9【角川俳句賞2024 プランB 全598】 選108句

IF

27

17行3段組14ポ 2024年5月9日 18:38 へ1 桐10

角 暖かで長閑な日々のありしこと

角 新緑の「ボール取らせてください」と

角 赤く長く茄子一族の唐辛子

角 引力を楽しむ春やゆやゆよん

角 古茶を啜り古書の山にも手を伸ばし

角 灯台が黄泉路を照らす野分の夜

角 喜色とは朝寝足りたる子の頬つぺ

角 抜きん出て次の蕾や花菖蒲

角 心臓に遠き血管手足冷ゆ

角 歌ふなり、はああるの、う、らあらの

角 赤青黄その他黴類研究所

角 切られては角なき鹿の小さき顔

角 塩辛き海に驚く雪解川

角 松からも竹からも風薫るなり

角 下戸の座に獅大根を仕る

角 春の土ほこり豊かに篩ひけり

角 雷の歡心を買ふ避雷針

角 関東をカントと訛る関東煮

角 花の蜜なめて再び囁りに

角 幹太く万緑を地に繋ぎ止む

角 閉め切れば障子の隙間風聞こゆ

角 交流のかよふ電線百千鳥

角 サイダーの甘き空缶籠に投ぐ

角 枯枝に枯れざる枝に雪が降る

角 同じ種が同じ高さに芽吹くころ

角 熱き地の1ミリ上を蟻あゆむ

角 雨音の消えしは雪か子の寢息

角 今の今以降は未来卒業歌

角 家来なき青大将の行方かな

角 今年はやふつつか者の二日なり

角 石鹼玉手玉に取つてみなきかな

角 岩陰へ蟹のがに股遁走す

角 北風の露地に遊ぶやつむじ風

角 つくづくと吾子の旋毛を潮干狩

角 毛ものらのその純血の毛虫やも

角 ラグビーの母校といふも中退で

角 墨するに今朝の董の雫かな

角 夜濯のつまみ洗ひで済ますもの

角 俳句、チョコ、切干、するめ冬籠

角 ピアノにはピアノブラック桃の花

角 八月は脱ぎ捨てられし蟬の殻

角 大寒の皺腹痒し搔くべかり

角 飛ぶ虫も飛ばざる虫も花に来よ

角 不発かと思ひし空に花火爆ず

角 有難や風邪寝の床に薬法師

角 花の雨しだるる枝にしたたるよ

角 魚籠あげて澄む水抜けて魚籠残る

角 春待つや紙石鹼の良い匂ひ

角 葉桜の緑しだるる水面かな

角 色なくて寂しからずや秋の風

新AT好子の施の 5.12 9:47 am

救に(4)に五(1)の(2)3 5.12 10:7 am

幹太く万緑を地に繋ぎ止む 5.10 10:55 am

角 下戸の座に獅大根を仕る 5.10 11:25 am

角 色なくて寂しからずや秋の風 5.11 4:7 am

角 魚籠あげて澄む水抜けて魚籠残る 5.10 10:52 am

角 毛ものらのその純血の毛虫やも 5.11 11:38 am

角 赤く長く茄子一族の唐辛子 11:27 am

2024.5.12 【角川俳句賞2024 プランB 全612】 選50句

5.12
5.13

2A

角 暖かで長閑な日々のありしこと

角 松に竹に五月の風の美しき

角 赤く長く茄子一族の唐辛子

角 引力を楽しむ春やゆやゆよん

角 新緑の「ボール取らせてください」と

角 灯台が黄泉路を照らす野分の夜

角 喜色とは朝寝足りたる子の頬つぺ

角 古茶を啜り古書の山にも手を伸ばし

角 心臓に遠き血管手足冷ゆ

角 歌ふなり、はああるの、う、らあらの

角 抜きん出て次の蕾や花菖蒲

角 切られては角なき鹿の小さき顔

角 塩辛き海に驚く雪解川

角 赤青黄その他黴類研究所

角 下戸の座に獅大根を仕る

角 春の土ほこり豊かに篩ひけり

角 雷の歡心を買ふ避雷針

角 関東をカントと訛る関東煮

角 花の蜜なめて再び囀りに

角 幹太く万緑と地の間かな

角 閉め切れば障子の隙間風聞こゆ

角 交流のかよふ電線百千鳥

角 サイダーの甘き空缶籠に投ぐ

角 短日の露地に遊ぶよつむじ風

角 同じ種が同じ高さに芽吹くころ

角 熱き地の1ミリ上を蟻あゆむ

角 今年はやふつつか者の二日なり

角 今の今以降は未来卒業歌

角 家来なき青大将の行方かな

角 ラグビーの母校といふも中退で

角 石鹼玉手玉に取つてみたきかな

角 岩陰へ蟹のがに股遁走す

角 俳句、チョコ、切干、するめ冬籠

角 潮干狩吾子の旋毛のよく見ゆる

角 毛ものら先頭に立つ毛虫なり

角 枯枝に枯れざる枝に雪が降る

角 墨するに今朝の董の雫かな

角 夜濯のつまみ洗ひで済ますもの

角 雨音の消えしは雪か子の寝息

角 ピアノにはピアノブラック桃の花

角 八月は脱ぎ捨てられし蟬の殻

角 大寒の皺腹痒し掻くべかり

角 飛ぶ虫も飛ばざる虫も花に来よ

角 不発かと思ひし空に花火爆ず

角 有難や風邪寝の床に薬法師

角 花の雨しだるる枝にしたたるよ

角 魚籠あげて澄む水抜けてしまひけり

角 春待つや紙石鹼の良い匂ひ

角 葉桜の緑しだるる水面かな

角 色なくて寂しからずや秋の風

11
5.13
6.1
5am
I.13
10.12

コ2 廻り 羽子 子 双 去 去 去 去
2024.5.15 8:10 am

2024.5.13 【角川俳句賞2024 プランB 全61】 選50句

角 暖かで長閑な日々でありしこと
角 松に竹に五月の風の美しき

角 引力を楽しむ春やゆやゆよん
角 新緑の「ボール取らせてください」と

角 喜色とは朝寝足りたる子の頬つぺ
角 古茶を啜り古書の山にも手を伸ばし

角 歌ふなり、はああるの、う、らあらの
角 抜きん出て次の蕾や花菖蒲

角 塩辛き海に驚く雪解川
角 赤青黄その他黴類研究所

角 春の土ほこり豊かに篩ひけり
角 雷の歡心を買ふ避雷針

角 花の蜜なめて再び囀りに
角 幹太く万緑と地を繋ぎけり

角 交流のかよふ電線百千鳥
角 サイダーの甘き空缶籠に投ぐ

角 同じ種が同じ高さに芽吹くころ
角 熱き地の1ミリ上を蟻あゆむ

角 今の今以降は未来卒業歌
角 家来なき青大将の行方かな

角 石鹼玉手玉に取つてみたきかな
角 岩陰へ蟹のがに股遁走す

角 潮干狩吾子の旋毛がよく見ゆる
角 毛ものら先頭に立つ毛虫なり

角 墨するに今朝の董の雫かな
角 夜濯のつまみ洗ひで済ますもの

角 ピアノにはピアノブラック桃の花
角 八月は脱ぎ捨てられし蟬の殻

角 飛ぶ虫も飛ばざる虫も花に来よ
角 不発かと思ひし空に花火爆ず

角 花の雨しだるる枝にしたたるよ
角 魚籠あげて澄む水抜けてしまひけり

角 葉桜の緑しだるる水面かな
角 色なくて寂しからずや秋の風

角 赤く長く茄子一族の唐辛子

角 灯台が黄泉路を照らす野分の夜

角 心臓に遠き血管手足冷ゆ

角 切られては角なき鹿の小さき顔

角 下戸の座に獅大根を仕る

角 関東をカントと訛る関東煮

角 閉め切れば障子の隙間風聞こゆ

角 短日の露地に遊ぶよつむじ風

角 今年はやふつつか者の二日なり

角 ラグビーの母校といふも中退で

角 俳句、チョコ、切干、するめ冬籠

角 枯枝に枯れざる枝に雪が降る

角 雨音の消えしは雪か子の寢息

角 大寒の皺腹痒し掻き筆る

角 有難や風邪寝の床に薬法師

角 春待つや紙石鹼のいい匂ひ

不況地に札行かせて神なし
5.15 2:49 am

紙子の只に寝きま正月
5.15 8:47 am

紙子の匂

5.14
5.15

29

2024・5・15 【角川俳句賞2024 プランB 全623】 選50句

5.16
5.17

30

角 暖かで長閑な日々のありしこと

角 松に竹に五月の風の美しき

角 灯台が黄泉路を照らす野分の夜

角 引力を楽しむ春やゆやゆよん

角 新緑の「ボール取らせてください」と

角 心臓に遠き血管手足冷ゆ

角 喜色とは朝寝足りたる子の頬つぺ

角 古茶を啜り古書の山にも手を伸ばし

角 切られては角なき鹿の小さき顔

角 歌ふなり、はああるの、う、らあらの

角 抜きん出て次の蕾や花菖蒲

角 下戸の座に獅大根を仕る

角 塩辛き海に驚く雪解川

角 赤青黄その他黴類研究所

角 関東をカントと訛る関東煮

角 春の土ほこり豊かに篩ひけり

角 雷の歡心を買ふ避雷針

角 閉め切れば障子の隙間風聞こゆ

角 花の蜜なめて再び囀りに

角 サイダーの甘き空缶籠に投ぐ

角 短日の露地に遊ぶよつむじ風

角 交流のかよふ電線百千鳥

角 熱き地の1ミリ上を蟻あゆむ

角 をさな子のただにうれしやお正月

角 同じ種が同じ高さに芽吹くころ

角 家来なき青大将の行方かな

角 今年はやふつつか者の二日なり

角 今の今以降は未来卒業歌

角 岩陰へ蟹のがに股遁走す

角 ラグビーの母校といふも中退で

角 石鹼玉手玉に取つてみたきかな

角 毛ものら先頭に立つ毛虫なり

角 俳句、チョコ、切干、するめ冬籠

角 潮干狩吾子の旋毛がよく見ゆる

角 夜濯のつまみ洗ひで済ますもの

角 枯枝に枯れざる枝に雪が降る

角 墨磨るに今朝の董の雫かな

角 八月は脱ぎ捨てられし蟬の殻

角 雨音の消えしは雪か子の寢息

角 ピアノにはピアノブラック桃の花

角 不発かと思ひし空に火花爆ず

角 大寒の皺腹痒し掻き筆る

角 飛ぶ虫も飛ばざる虫も花に来よ

角 魚籠あげて澄む水抜けてしまひけり

角 有難や風邪寝の床に薬法師

角 花の雨しだるる枝にしたたるよ

角 色なくて寂しからずや秋の風

角 春待つや紙石鹼のいい匂ひ

角 葉桜の緑したるる水面かな

角 赤く長く茄子一族の唐辛子

（後一巻
著の内弁言）

2024・5・17【角川俳句賞2024 プランB 全625】 選50句

31

- | | | |
|---------------------|---------------------|-------------------|
| 角 暖かで長閑な日々のありしこと | 角 松に竹に五月の風の美しき | 角 灯台が黄泉路を照らす野分の夜 |
| 角 引力を楽しむ春やゆやゆよん | 角 新緑の「ボール取らせてください」と | 角 心臓に遠き血管手足冷ゆ |
| 角 喜色とは朝寝足りたる子の頬つぺ | 角 古茶を啜り古書の山にも手を伸ばし | 角 切られては角なき鹿の小さき顔 |
| 角 歌ふなり、はああるの、う、らあらの | 角 抜きん出る勢ひの次の花菖蒲 | 角 下戸の座に鯰大根を仕る |
| 角 塩辛き海に驚く雪解川 | 角 赤青黄その他黴類研究所 | 角 関東をカントと訛る関東煮 |
| 角 春の土ほこり豊かに篩ひけり | 角 雷の歓心を買ふ避雷針 | 角 閉め切れば障子の隙間風聞こゆ |
| 角 花の蜜なめて再び囁りに | 角 サイダーの甘き空缶籠に投ぐ | 角 短日の露地に遊ぶよつむじ風 |
| 角 交流のかよふ電線百千鳥 | 角 熱き地の1ミリ上を蟻あゆむ | 角 をさな子のただにうれしやお正月 |
| 角 同じ種が同じ高さに芽吹くころ | 角 家来なき青大将の行方かな | 角 今年はやふつつか者の二日なり |
| 角 今の今以降は未来卒業歌 | 角 岩陰へ蟹のがに股遁走す | 角 ラグビーの母校といふも中退で |
| 角 石鹼玉手玉に取つてみたきかな | 角 毛ものら先頭に立つ毛虫なり | 角 俳句、チョコ、切干、するめ冬籠 |
| 角 潮干狩吾子の旋毛がよく見ゆる | 角 夜濯のつまみ洗ひで済ますもの | 角 枯枝に枯れざる枝に雪が降る |
| 角 墨磨るに今朝の董の雫かな | 角 八月は脱ぎ捨てられし蟬の殻 | 角 雨音の消えしは雪か子の寢息 |
| 角 ピアノにはピアノブラック桃の花 | 角 不発かと思ひし空に花火爆ず | 角 大寒の皺腹痒し掻き筆る |
| 角 飛ぶ虫も飛ばざる虫も花に来よ | 角 魚籠あげて澄む水抜けてしまひけり | 角 有難や風邪寝の床に薬法師 |
| 角 花の雨しだるる枝にしたたるよ | 角 色なくて寂しからずや秋の風 | 角 春待つや紙石鹼のいい匂ひ |
| 角 葉桜の緑したたる水面かな | 角 赤く長く茄子一族の唐辛子 | |